慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Lee K. Frankel and Alexander Fleisher: The human factor in industry.
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.7 (1922. 7) ,p.1047(159)- 1048(160)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220701-0159

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論」を、ラサッルは「勞働問題に就て」を載せてゐる。獨逸における社會主義文献は近代的意味においては、ほゞこれで足りると考へられる。ゾンバルトの集錄は哲學者ダイセテをも載せてゐるやうである。マルキシズムの一新型態としてのボルシェヴィズムの文献もこの種の集錄には、缺くべからざる重要を有するものである。ディルはその代表としてラデックの「科學より實行への社會主義の發達」ブハリンの「共産主義綱領」を採錄する。ゾンバルトはレーニンの「國家と革命」の一節を集錄してゐるが共にボルジェヴィズムの重要し文献である。社會主義と對立の概念である無政府主義に關しては、私有財産主義を主張する P. Kropotkin と、共産主義を主張する Pierre Proudhon との文献を掲げる。土地社會主義に對しては Henry George のみを掲げる。この點に就ては、英國土地社會主義者の文献をも集錄するの必要がないだらうか。但し現代の社會主義から見れば、この點は重大ではないやうである。

更らに第二部綱領の部分を見ると、また各國別に分類されており、この集錄の範圍も甚だ當を得てゐるやうである。この點において、ゾンバルト教授の集錄よりも秀てゐるやうである。ゾンバルトの集錄はマルクス以後における重要な世界的意義のあるもののみを集錄してゐて、各國の運動に關する宣言書等は缺けてゐる。またディルの書の一特徴は、マルクスがゴータ宣言批評として一八七五年ブラッケに與へた有名の書翰の載せられてゐることである。この書翰はマルクスの死後始めて、「ノイエ・ツアイト」誌上に掲載せられたもので、ゴータ宣言に對する嚴正なる批判であると共に、マルクスの社會學的思想の重要なるものを含んでゐる。即ち近時ボルシェヴィズムの主張である「無産階級の獨裁」なる言葉は實にこの書翰の中に發見し得るのである。「資本主義から共産主義の社會へ移る間には一の過渡期がある。それは一の政治的形態であつて、即ち無産階級の革命的獨裁」が

の有名な章句はこの書翰の一部を形成するのである。この書翰は堺利彦氏によつて「社會主義研究」誌上において飜譯發表された。

ディルの書に發見し得ないのは、社會主義に對する批評である。ゾンバルトの用意はこの點において優さつてゐる。彼は四五の社會主義批評家の文章を採錄することを忘れなかつた。要するに、幾多の歳月を經た社會主義文献史の中から、この重要なものを選擇することは、甚だ困難である。この點を考へるとき吾々はディル、モンベルトの兩教授に感謝せざるを得ない。

（加田哲二）

Lee K. Frankel and Alexander Fleisher: The Human Factor in Industry
(The Macmillan Company, New York)

著者 Frankel 氏はメトロポリタン生命保險會社の第三副社長であり、Fleisher 氏は同社の書記補であつて、本書は外に Laura S. Seymour 嬢の補助によつて成つたものである。總ての産業が資本の勢力によつてなされるが如く信ずる傾向が盛んであつて、澄徹した頭腦の所有者でさへ理論上資本と勞働との協力によることを認めながらも、尙ほ屢々勞働よりも資本の勢力を重要視する過誤に陷り易い時に於いて、過般の戰役によりて漸く世界の注視を受くるに至りたる産業に於ける勞働の重要なることを主張し勞働者に對する福祉施設を單に傭主の利益のみならず、また勞働者の利益のみならず、廣く社會から觀察して論斷し、新しき試である Labor Administration に就いてその實際上の施設效果を詳論したものが本書である。

本書は章を分つこと十二、その主なるものは緒論、雇傭關係、教育、勞働時間、勞働狀態、醫療、賃銀支給方法、休養及び娯樂、傭主及び社會、保險貯畜及び貸借、勞働管理部の組織である。評者が本誌本號に於いて「勞働管理問題一斑」と題したる一篇は、專ら本書の最初の一章緒論と最後の一章勞働管理部の組織との飜譯によつて成つたものであるが、それは決して本書

の重要部分を形成するものではない。本書の眞價は寧ろメトロポリタン生命保險會社の調査に基く統計その他の得難き資料を活用したる他の部分に於いて却つて發揮せられてゐると云ふべきであらう。

著者自ら序文に云ふ如く最近産業上の問題が喧しく論議せられ、各種の文献が非常に多數公にせられてゐるが孰れも特殊問題に對する解答であつて一般的論評の缺如する時に於いて、その要求を充さんとするが本書であつて、これによつて實際家はこの方面の施設をなすに方つて教えらるゝところあり、讀書子は新しき産業上の運動を理解することが出來るであらうといふ著者の抱負は、また以て本書の内容と價値とを窺はんとするものに對する、簡單にして然かも有力なる解答とすべく、引照の該博なるは著者にあらざれば到底よくする能はざるところであらう。今や前代未聞の恐慌に際會し我が國の産業にも紛糾せる經營上の諸問題の頻發續出する時に方つて、本書の貢献するところは頗る多大であることを疑はない。

園　乾　治

前號（第十六卷第六號）目次（大正十一年六月號）

論　説

分業と專占　瀧本　誠一
リカルドオの價値論（五、完）　小泉　信三
近世資本主義起源考（五、完）　阿部　秀助
「道德的情操論」と國富論（下）　高橋誠一郎

雜　録

モリス・ヒルキットの「フルクスよりレーニンへ」　加田　哲二
ジョン・ラスキンの奢侈論（二、完）　奥井復太郎
資本の本質に關する一論草（三、完）　金原賢之助
ウヰリアム・モリスの觀たる中世經濟生活（下）　加田　哲二
健康保險運動の基調（四、完）　園　乾治

新刊紹介

堀江歸一著「續編世界の經濟は如何に動くか」　增井　幸雄
原靜著「銀行實務誌」　堀江　歸一
加田哲二著「國家學説と社會思潮」　金原賢之助

一冊定價金五拾錢
半ケ年分金貳圓九拾錢
一ケ年分金五圓四拾錢
郵税金壹錢五厘共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十一年六月廿一日印刷納本
大正十一年七月一日發行
毎月一回一日發行

三田學會雜誌
第十六卷第六號

東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内
編輯兼發行者　江田範保
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者　金子鐵五郎
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷所　金子活版所

東京市芝區三田貳丁目壹番地
發賣元　國文堂書店
電話高輪一三七番
振替東京四六九四九番

●尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京芝三田慶應義塾内　理財學會